

南三陸町高校魅力化協議会

令和2年度 南三陸町高校魅力化協議会（第1回）	
日 時	令和2年12月17日（木）16：00～17：15
場 所	南三陸町役場 3階会議室
	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 挨拶3 議事等<ul style="list-style-type: none">(1) 学校設定科目等検討部会の進捗報告について・・・・・資料1（事務局）(2) 全国募集・情報発信部会の進捗報告について・・・・・資料2（事務局）(3) 宮城県教育庁の全国募集に対する検討状況について・・資料3（事務局）4 その他<ul style="list-style-type: none">・事務連絡等（次回日程、他）5 閉会
次 第	<p><資料></p> <ul style="list-style-type: none">・次第 「令和2年度第1回南三陸町高校魅力化協議会」・委員名簿・資料1 学校設定科目等検討部会進捗報告について・資料2 全国募集・情報発信部会進捗報告について・資料3 宮城県教育庁の全国募集に対する検討状況について
出 席	<p>委員（敬称略）</p> <p><出席：9名></p> <p>最知明広（副町長）、斎藤明（教育長）、葛西利樹（志津川高校校長） 山内義申（同窓会会长）、山内利也（志津川高校PTA会長）、 三浦伸俊（歌津中学校校長）、阿部麻帆（歌津中学校PTA会長）、 佐藤克哉（民間）、阿部忠義（民間）</p> <p>事務局：4名（及川課長、桑原調整監、佐藤室長、佐藤主事）</p>

<1 開会>（事務局）

<2 挨拶>（会長）

第1回協議会へ出席いただき感謝申し上げます。今年度は策定した魅力化構想に基づき、各部会での議論を重ねているところです。今年3月、町長から県教育長に構想を渡した際、令和4年から全国募集するとの意思を伝えたが、町と県の間には全国募集に対する認識の相違があった。今後の協議会の在り方については、取組み可能な部分について、委員の皆様や県教委と十分に情報共有しながら構想を前に進めていきたい。本日は、これまでの各部会の進捗状況を報告させていただく。

<3 協議>

（1）学校設定科目等検討部会の進捗について

事務局から、資料1「学校設定科目等検討部会進捗報告」について説明。

会長：資料1の報告が終わりましたが、意見を頂戴したい。

委員：学校設定科目は教科として「商業」に設定するため、目標や評価方法についても「商業」を基準に行う。例えば、商業の目標には「ビジネスに関する課題を発見し～解決する能力を養う」とあるため、この基準に沿った取組にしなければならない。

委員：これまで普通科の中にはビジネスに関して実践的に学ぶ科目は無かった。令和4年度から新しい学習指導要領によるカリキュラムとして普通科に地域創造系を創設し、2年生から「地域学」2単位。3年生から「地域探求学」3単位を計画しているところ。

会長：高校から県教委へ計画を提出したときの反応はどうだったか。

委員：全国的な課題として、普通科に特色がないと言われている。高校生の約70%は普通科に進学しているが、普通科に文科省も推進している地域創造系を設置する動きがある。その中で、モデルケースとして期待されていると感じる。

委員：令和4年度から始まるのか。

委員：令和4年度から開始する。

委員：教科としての商業の目標と、「地域学」「地域探求学」の取組目標はリンクしているのか。

委員：リンクするよう部会でも検討しながら計画している。

委員：地域学、地域探求学の目標変更案で、「南三陸町」が全面に出ている。このカリキュラムの学びによって南三陸町で活躍する人材を育成するのか。全国どこでも活躍できる人材育成を目的にするのか。

委員：「南三陸町」を知るためではなく、将来のキャリア形成に必要なスキルを身に付けるために学習の教材として「南三陸町」を利用するというイメージです。

会長：この地域学、地域探求学を子供達は学びたいと思うのかどうか。取組を魅力あるものにして、子供達に魅力が伝わるように発信方法も検討が必要。

委員：現在は大学入試の際、AO入試がある。問題発見力や課題解決力が必要なスキルであり、そういったAO入試に対応できる力を養うためには非常に有効な取組内容になると思う。

（2）全国募集・情報発信部会の進捗報告について

事務局から、資料2「全国募集・情報発信部会の進捗報告」について説明。

事務局：補足説明。受入れ体制として里親型を検討している理由は、財政面と全国から来る生徒達にとってホームステイそのものが、町の文化や生活の学びとなり、魅力のコンテンツのひとつとして、関係人口の増加等に繋がる可能性があると考えており、まちづくりの観点から、里親型を検討しています。また、資料は素案としてお示ししているものなので、事前審査・選考についてはこれから高校と検討していく課題です。さらに、資料にある財政支援についてもあくまで現段階で考えうる課題解決の手段であり、委員の皆様から意見をいただきながら、今後も検討を進めます。

会長：資料2の報告が終わりました。意見を伺いたい。

委員：様々な調査や検討をされているが、やはり里親と生徒の相性が課題となっている。他の地域の里親型は参考にしているのか。

事務局：他の地域の参考事例については、次回以降の部会においてお示しする予定です。

委員：各家庭の調査をされているが、感触として受入れ先の数は確保できそうなのか。

事務局：調査の感触としては、初年度の予定10件は確保できると考えています。ただし、令和4年度開始の計画を踏まえた状況であり、全国募集の開始時期によっては調整が必要になると考えます。

委員：光熱費や食費などは資料にある補助に含まれているのか。

事務局：含まれています。

委員：3年間は大変だと思う。慎重に考えなければいけない課題だが、生徒と受入先が上手くマッチングすればとても良い取組だと思う。

事務局：将来的な受入先確保のため、成功事例をつくることが重要だと考えています。

会長：部会の中で寮の話は出たのか。

委員：少しあは出たが、基本的には里親型が現実的だとの方向性になった。

会長：里親だと集まらないのではとの意見はなかったか。

委員：里親型という方向性の中において、課題や懸念事項をひとつひとつ前向きに解決していくための議論が中心であった。また、万が一のセーフティーネットについても検討しているところ。

会長：他地域の成功事例を参考に検討していかなければならない。

委員：昼食をどうするかも課題。志高にはパン販売はあるが、気仙沼向洋には売店や食堂もある。そのような環境整備も必要では。親の立場としては学校選択の要因のひとつになる。

委員：里親と下宿の中間ぐらい受け入れ体制があればよいが。

会長：今回の協議会で出た意見について次回の部会においてフィードバックしてほしい。

（3）宮城県教育庁の全国募集に対する検討状況について

事務局から、資料3「宮城県教育庁の全国募集に対する検討状況」について説明。

会長：県教委に対して、町として令和4年度に全国募集を開始するとの意思表示してきたが、県教委の現在の検討状況として、まずはモデル校を選んで実証していくとのこと。スケジュール的にモデル校として令和4年度の開始は厳しくなりましたが、意見等ござりますか。

委員：令和3年7月の審議会においてモデル校が決まったとして、スケジュール的にも、全国募集をするにあたっての受入体制や、身元引受人等の課題を考慮すると令和4年スタート

は現実的にかなり難しい。ただし、委員として出席している専門委員会で話に出たのは、地域住民や市町村からの要望、財政面の支援等の条件が整っている高校からモデル校が選ばれる。現時点では志津川高校が最有力との意見があった。

委員：部会にもオブザーバーとして県教委に参加いただいていたが、令和4年度開始は無理だとわかつていて参加していたのか。当初から難しいと教えてもらえば、部会の方向性や取組も変わっていたはず。

会長：部会では言えなかつたのでしよう。本日はこれまでの部会進捗の報告をさせていただいた。全国募集については、全国的に県としての取組が遅れているなかで、さらに開始が遅れてしまうのは残念なことだ。準備期間が伸びたと捉えることもできるが、今後も県教委と情報共有しながら進めていきたい。

<4. その他>

特になし

～閉会～